

## 基本的な生活習慣について

### ■生活のリズムが安定した生徒が多い

- ほぼ8割の生徒が、朝食を食べている。
- ほぼ8割の生徒が就寝、起床時間が割決まっていると答えている。
- 生活のリズムが高いレベルで安定している。

### ■ゲームやインターネットに費やす時間が増加している生徒がいる

- 自分専用のスマートフォンを高い割合で所持しているが、7割近い生徒が家族との約束を守っている。
- 9割以上の生徒が、放課後にTV、YouTube、T i k T o kの視聴や、インターネット、SNSの利用に時間を費やしている。

### ■放課後の生活が充実している

- 放課後は、ほとんどの生徒が部活動や社会体育活動に参加している。

## 学習習慣について

### 家庭学習の時間

- 計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒は7割を超えている。2割以上の生徒が家庭学習を計画的に行えていない。
- 平日、休日ともに学習に取り組まない生徒はいない。
- 平日3時間を超えて学習する生徒は2割と少なく、1時間以内と答えた生徒が3割弱おり全国・県と比較しても家庭学習の時間が不足している。
- 学校が休みの日の学習時間が少なく、約5割の生徒が2時間以内である。

### 読書・新聞・ニュース

- 約6割が新聞をほとんど読まないと答えているが、1週間の間に4割は新聞に目を通す習慣があり全国平均よりも高い。
- 毎日新聞を読む生徒は全国平均よりも少ない。
- 読書の時間は、一日1時間以内から10分以上と答えた生徒が7割となっており、学校での朝読書の時間が中心となっている。
- 8割強の家庭には100以上の多くの本があるようだが、学校以外での読書の習慣が定着していない。

## 学校生活・学習について

- 学校へ行くのが楽しいと答えた生徒は、6割5分おり全国平均を大きく上回っている。どちらかと言えば当てはまるを含めると9割近くの生徒が学校が楽しいと感じている。一方で1割の生徒はどちらかと言えば当てはまらないと答えており全国平均同等である。当てはまらないと答えた生徒はいなかった。
- いじめについて、100%の生徒がどんな理由があってもいけないことだと考えている。
- 学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきこと決めて取り組んでいると答える生徒が多く、学級での話し合いにより集団としても高めあっていく気風がある。
- ICT機器を使用した学習は勉強の役に立つと考える生徒が100%で、意欲を引き出すツールとして有効だと言える。
- 5割以上の生徒自身がICT機器を活用して学習を進めることができていると回答している。月に1回以上使用している生徒は100%である。
- 主体的・対話的で深い学びの実践に関わる設問では、全体的に数値が高く、教え合いや、考えを深めたり広げたりする主体的な学びが実践されている。
- 総合的な学習時間では、自ら課題を発見し、まとめたり発表する課題解決学習ができていると感じている生徒が8割と多くいる。
- 道徳の授業では、自分の考えを話し合ったり積極的に表現することが苦手で、どちらかと言えば当てはまらないと答える生徒が2割いる。
- 学習内容を次につなげることが難しいと答えた生徒が3割いる。

## 人・地域との関わりについて

- 8割以上の生徒が地域の行事やボランティア活動に参加していると回答。
- 全国平均を大きく上回る5割の生徒が、地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがあるが、5割の生徒はあまり考えていない
- 友達やクラスメイトとの関わりは良好な生徒が多く、友達の話や意見を最後までできくと100%の生徒が答えている。

## 生徒の意識について

- 自分で決めた事に対しては9割の生徒がやり遂げようとしており、全国平均を大きく上回っている。
- 9割近い生徒が自分には良いところがあると感じている。
- 人が困っているとき進んで助けたり、人の役に立つ人間になりたいの項目も100%の当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えている。
- 将来の夢や目標を持つと答えた生徒は5割5分で全国平均と比べて少ない。
- 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している生徒が8割以上いる一方で、約2割の生徒が難しいことに挑戦することに二の足を踏んでいる。

本年度の結果を見ると数値は全体的高く、安定した家庭で過ごし、地域や友達と密接に関わりながら落ち着いた学校生活が送れている。学級への安心感や、信頼度が高く、クラス替えがない中で育まれた友好的な雰囲気がかえりあっている。また、他者を思いやる気持ちやいじめを許さない気持ちはある。

その反面、競争意識や1人で課題を乗り越える力が弱い。

家庭学習を行う意識は高いが、学習時間は短い傾向にあり、SNSやオンラインゲームに費やす時間が長い。約半分の生徒が将来の夢や目標を持っているが、約半分の生徒は目標を意識することができていない。高校受験や目標に向け準備や行動を行う生徒とそうでない生徒に開きが生じている。初めての人生の岐路に立つという自覚を意識させ、将来の自分の姿を思い描きながら、生活を送らせたい。